

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成21事業年度の業務実績に関する評価結果

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の平成21事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成21年度業務実績に関する年度評価を実施しました。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものです。

今回の年度評価は、平成18年4月に法人設立後、4回目の評価で、法人の自主的・自律的な運営及び大学の教育研究の特性に配慮しつつ、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価しました。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、効率化、活性化等が図られることにより、教育・研究・診療が一層充実するとともに、法人の業務運営状況について、県民のより一層の理解が深まることを期待します。

なお、今回の評価委員会による年度評価を踏まえ、翌年度以降の年度評価について、改善・充実を図ることが重要であると考えています。

平成22年8月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

1 総 評	1
2 特色ある取組等	1

第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
(1) 教 育	2
(2) 研 究	3
(3) 附属病院	3
(4) 地域貢献	4
(5) 産官学の連携	5
(6) 国際交流	5
2 業務運営の改善及び効率化	
(1) 運営体制の改善	5
(2) 教育研究組織の見直し	6
(3) 人事の適正化	6
(4) 事務等の効率化・合理化	6
3 財務内容の改善	
(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加	6
(2) 経費の抑制	7
(3) 資産の運用管理の改善	7
4 自己点検・評価及び情報提供	
(1) 評価の充実	7
(2) 情報公開等の推進	8
5 その他業務運営	
(1) 施設及び設備の整備・活用等	8
(2) 安全管理	8
(3) 基本的人権の尊重	8
<参考>	10

第1 全体評価

1 総 評

- 「公立大学法人和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与する。」という基本的な目標のもと、平成21年度は、地方独立行政法人として4年目を迎え、中期目標期間の3分の2を経過したところであるが、公立大学法人として求められている「地域に開かれた大学」及び「地域社会への貢献」という使命を果たすべく、より良い大学教育と地域医療を実現するために、教職員が一丸となり組織の充実・拡充と事業の拡大に取り組んだ。

その結果、昨年度までの成果を生かしながら、年度計画を順調に進めるとともに、さらなる改革・改善を図りつつある。

- 年度計画記載303事項の実施状況を確認したところ、32事項について「計画を上回って実施している。」と認められ、また、265事項について「年度計画を十分に実施している。」と認められる。一方、6事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められるも、これらを総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体的には概ね順調に進んでいると認められる。なお、研究費の不適正支出や医師国家試験合格率の低下等の新たな問題が生じていることに留意する必要がある。

2 特色ある取組等

- 平成21年度より、医学部入学定員が10名増員され、95名（一般枠70名、県民医療枠20名、地域医療枠5名）となったことに伴い、紀三井寺キャンパスでの基礎教育棟の改修とともに、三葛キャンパス内に、「医学部三葛教育棟」の供用を開始し、教育環境を整備した。
- 地元企業からの寄附により、「高度医療人育成センター」を建設し、医学部におけるC B T（コンピューターを用いた多岐選択形式試験）・O S C E（客観的臨床能力試験）の場を提供し、臨床技能研修センター（スキルスラボ）及び卒後臨床研修センターの移設や、女性医療人支援センターの設置など、医療人の育成に努めた。
- 平成20年度に開設した大学院保健看護学研究科（修士課程）において、健康に関する様々な分野と連携しながら、保健・医療・福祉をとりまく環境に先駆的に対応できる専門職の育成を行い、一期生13人の修了生を輩出した。
- 積極的な外部資金の活用、特別研究員の採用など、研究活動の充実を図るとともに、優れた研究成果の知的財産化を進めた。また、疾病予防につながる研究を行うために、「みらい医療推進センター」を開所した。
- 附属病院は、県がん診療連携拠点病院に指定更新され、「腫瘍センター（化学療法、放射線治療及び緩和ケアの三部門）」の開設など、がん診療体制の充実を図り、がん診療に貢献した。
- 附属病院では、地域医療の中核機関として、県民の期待に応えるとともに、臨床教育や実習

の場を提供し、医療人の育成にも貢献した。さらには、診断書作成所要期間が24.1日から14.1日まで短縮されるなど、患者サービスが向上した。

- DPC（診断群分類包括評価）コード分析システムの導入により、DPCデータを用いた経営分析が行われており、診療収入の増加が図られた。
- 本院・紀北分院ともに、病床稼働率は前年度を下回ったが、平均在院日数は短縮できた。
- 収入の大部分を占める病院収益も増加しているが、診療収益の増加以上に診療経費が増加しており、さらなる経費節減努力が必要である。
- 昨年度まで達成できなかった委員会の廃止・統合や事務組織の改善が行われた。
- 法人財務については、積極的に収入の確保と経費の削減に努め、当期総利益約3億4千万円を計上した。

第2 項目別評価

評 定 の 区 分	S・・・特筆すべき進捗状況にある。 A・・・順調に進んでいる。 B・・・概ね順調に進んでいる。 C・・・やや遅れている。 D・・・重大な改善事項がある。
-----------------------	--

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載130事項中129事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

〈医学部〉

- 医師国家試験の合格率が87.5%と、前年度より7.7ポイント低下し、全国順位も80校中、45位から73位と大幅に後退しており、原因の探求と対策とともに、今後、改善に向けた努力が必要である。
- 平成21年度の学生定員増に伴って、カリキュラムの改定を行い、人文系の選択教科を増やすために、外部教員2名を増員した。
- チーム医療やインフォームドコンセントに不可欠なコミュニケーション能力を育成するため、地域の老人福祉施設・保育所・障害者福祉施設における実習機会の継続により、地域医療マインド育成に努めた。
- 平成22年度より後期入学試験の廃止を決定した。
- 「高度医療人育成センター」の建設及び基礎教育棟・実習棟の改修により教育環境の整備を行った。

〈保健看護学部・助産学専攻科〉

- 保健師、助産師、看護師の国家試験の合格率が100%であったことは、教育水準の高さを示すものである。

〈助産学専攻科〉

- 地域医療への参加を促進し、地域との交流、医療への学生の関心を高めるため「助産管理実習」において、開業助産師のもとで宿泊・実習を行い、母子保健活動や助産所業務を学ぶなど、地域医療を実践するカリキュラムを配置し、全員が履修した。

〈共通〉

- 教務学生委員会委員及び健康管理医により効果的相談体制を取るとともに、健康管理センターで学生の健康管理を行った。なお、保健看護学部では外部カウンセラーによる学生相談に応じた。
- 留学生に対し、安全講習会を実施した。

(2) 研究

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載27事項中26事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 観光医学講座において、「スポーツ・温泉医学研究所」で活発な研究活動を行うとともに、和歌山市中心部で新たに「みらい医療推進センター」を開設し、疾病構造の改善、診療活動の改善及び疾病予防に取り組んだ。
- 特定研究助成プロジェクトにおいて、7件の応募から4件を採択するなど、講座の枠を越えた研究の推進に努めた。
- 公募による優秀な人材確保のため、教員の選考及び昇任基準をより具体化する規程を制定・施行した。
- 特別研究員を雇用し、研究者層の充実を図るとともに、基礎系教員の定数を増やし、学内助教（基礎）の制度を創設した。
- 産官学連携推進本部にて、株式会社紀陽銀行とともに「異業種交流会」を開催し、企業とのマッチングを促進した。
- 附属病院におけるがんの診療体制を充実し、県がん診療連携協議会の講演会を9回、県内医師向け緩和ケア研修を8回開催し、さらに、地域連携パスの作成に着手するなど、県内のがん対策に大いに貢献した。
- 多様な研究内容を公開するとともに、その成果を評価し、意欲を高めるため、積極的に顕彰した。

(3) 附属病院

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載62事項中全てが、「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画

を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ケアマインド教育、地域の老人福祉施設・障害者福祉施設・保育所実習などを通じて患者本位の医療を志す教育を推進した。
- 卒後臨床研修センターを中心として、17の協力病院に、延べ131人の研修医を派遣し、研修を実施した。
- 生涯学習や医療従事者を対象とした研修会を開催するとともに、地域の医療機関等に医師や研修医を派遣するなど、多岐にわたる支援を行った。
- 医療技術の開発、普及等を推進するため、新規分野の「循環器画像動態診断学講座」を開設した。
- 紀北分院では、新病院での卒後研修のための研修医宿泊室を16名分確保し、受入体制を整えた。
- 先進医療の許可件数が4件あったが、1件が保険収載されて3件となった。
- ドクターヘリの年間387回の出勤により、迅速な医療機関への搬送に大いに成果をあげた。
- 患者のニーズに応じた診療体制を確立するため、腎臓内科・血液浄化センターにおいて、膠原病・リウマチ診療等を開始した。
- 県がん診療連携拠点病院の指定更新を受け、「腫瘍センター（化学療法、放射線治療及び緩和ケアの三部門）」を10月に開設し、がん診療体制の充実に貢献した。
- 医療安全推進部の体制強化を行った。
- 本院・紀北分院ともに、平均在院日数は改善された。
- 9月より、診断書作成ソフトの導入と診断書クレーク3名の配置により、診断書受付から交付までの所要期間が24.1日から14.1日に、10日程度短縮した。
- 未収金対策専任職員を2名配置し、夜間・休日の督促・徴収を実施した。
- DPCコード分析システムにより、適正なコーディングに取り組むとともに、レセプトチェックシステムを導入し、経営改善につながる取り組みを実施した。
- 看護師の部分休業制度などを導入し、看護師の労働環境の改善に努力した。
- 医師等の業務負担の軽減を図るため外来クレーク18名を導入するとともに、紀北分院において給食業務を全部委託し、検体搬送業務の外部委託を行った。
- 紀北分院において、現業部門にアウトソーシング等を導入した。
- 新病院への移行期に当たるため、紀北分院の病床稼働率が下がっているが、新病院開設後の改善を期待する。

(4) 地域貢献

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）

年度計画の記載14事項中13事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 小児保健医療体制充実のため、「小児成育医療支援学講座」にて、本学附属病院や公立那賀病院において相談業務を行っているが、臨床心理士を増員した結果、相談件数が前年に比べ大幅に増加した。
- 安全・安心な周産期医療体制を確保するための調査・研究を実施した。
- 県がん診療連携拠点病院として、県内医療従事者に対して講演会を9回、県内医師向けの緩和ケア研修を8回開催し、多数の参加者により、がんの知識向上に大いに貢献した。
- ドクターヘリの運行継続により、隣接する県及び当県のへき地救急医療に387回出動し、病院間搬送や救急病院との連携が円滑に行われ、多くの重症患者の救命救急に貢献した。
- 県内の小・中・高校生を対象に、本学教員による23回の出前授業を行った。
- 観光医学講座ツアー及び認定講習会を開催することにより、観光立県和歌山として、特色ある医療を展開した。

(5) 産官学の連携

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）

年度計画の記載5事項中4事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 株式会社紀陽銀行との連携協定に基づき、共催による異業種交流会、相談会を開催し、企業とのマッチングを促進し、受託研究まで発展させた。
- 県内他大学との単位互換を実施できる機会を広めるため、遠隔講義システムを導入した。
- 高等教育機関コンソーシアム和歌山に参加したが、公開講座の派遣講師は1名にとどまった。

(6) 国際交流

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載4事項中全てが、「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 平成21年度から新たに香港中文大学との学生交流を始めた。
- 留学生向けの安全講習会を開催した。

2 業務運営の改善及び効率化

(1) 運営体制の改善

【評定】A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載8事項中全てが、「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 理事長のリーダーシップを発揮できるよう、毎週理事会を開催し、重要事項を協議するとともに、必要に応じて拡大理事会を開催した。
- 企画戦略機構、産官学連携推進本部の展開により、組織の活性化に努めた。

(2) 教育研究組織の見直し

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項中全てが、「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 各種委員会のうち、役割を終えたもの及び統合できるもの等について、11委員会を廃止し、業務の効率化を進めた。

(3) 人事の適正化

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載11事項中全てが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 教授選考の過程でプレゼンテーション及びインタビューを公開し、より優秀な人材を獲得できるよう制度を改めるとともに、学内から実績のある人物に応募依頼を行う方式を定型化した。
- ホームページに公募情報を掲載し、教授等の公募を行い、教授2名講師1名を採用した。
- 育児休業した教員1名に代替教員制度を用いた。
- 子育て支援のため、夜間勤務免除や育児休業・育児時間の取得推奨などを行った。
- 他の公立病院と、医師、看護師、医療技術職員等の人事交流を行った。

(4) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載2事項中全てが、「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 事務組織8課室19班を再編し、人力的に制約のある中で、新規に監査室を設置することを決定した。
- 薬剤部において、薬剤搬送業務を外部に委託した。

3 財務内容の改善

(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項中全てが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十

分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 病床稼働率が低下したが、平均在院日数の短縮などにより、入院単価が増加し、病院収益は前年に比し3.8%の増加となった。
- 紀北分院においては、平均在院日数は短縮されたものの、病床稼働率は著しく低下し、収益減となったが、新病院建設中のため、やむを得ないものである。今秋の新病院開設後に改善されるものと期待したい。
- 産官学連携推進本部において、異業種交流会を2回開催し、企業とのマッチングを推進するとともに、個別に企業との研究相談を6件行い、寄附金の増収につながった。

(2) 経費の抑制

【評定】 C (やや遅れている。)

年度計画の記載5事項中4事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 医療用材料と医薬品における診療収入比率が増加しており、経費の抑制を十分図ることができなかった。
- コピー機購入に際し、機器本体に保守管理サービスも加えて入札を行い、年750万円の経費削減につながった。
- 節水・エレベーター使用自粛・不要な照明の消灯の啓発により、管理費節減に努めた。

(3) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が、「年度計画を十分に実施している。」と認められたことによる。

【評価及び指摘事項】

- 定期預金と譲渡性預金による適切な運用を行った。

4 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 C (やや遅れている。)

年度計画の記載3事項中2事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 自己点検・評価報告書を作成し、関係各所に配布するとともにホームページに掲載した。
- 保健看護学部生・助産学専攻科生に対して「大学生活に関するアンケート」を実施するとともに、大学院生に対して「大学院に関するアンケート」を実施し、評価の充実に努めた。

(2) 情報公開等の推進

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項中全てが、「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- リアルタイムな情報を公開するため、808回に及ぶホームページの更新を行って、大学・大学院・助産学専攻科の研究活動、学費、学生生活等に関する情報を適切に提供した。
- 年4回、病院情報誌「まんだらげ」を各4000部発行し、積極的な情報提供を行った。

5 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載7事項中全てが、「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 高度医療人育成センターが平成22年4月に供用を開始し、また、紀北分院は今秋開設が予定され、今後、地域への貢献が期待される。
- 系統解剖室の換気設備の改修を終了した。防火シャッターの改修は計画的に実施している。また、ナースコールの設備及び本院外来駐車場の管理設備について更新計画を策定した。
- 新分院の医療情報システムの発注と医療機器整備計画の策定を行った。

(2) 安全管理

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項中全てが、「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 全職員による防災避難訓練を実施するとともに、災害時における院内連絡網の見直しを行った。
- 教職員に対する健康診断及び各種人間ドックを実施し、人間ドックの受診勧奨を実施した結果、受診者の増加につながった。
- キャンパス内の禁煙とゴミ分別についての講習会・ポスター掲示を行った。
- 教職員の健康管理の見地から、キャンパス内禁煙啓発活動のみでなく、定期的に、喫煙率調査を行うとともに、禁煙支援に取り組む必要がある。

(3) 基本的人権の尊重

【評定】A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載7事項中全てが、「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を

十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 全所属に職場研修員を設置し、人権意識の研修を実施し、人権啓発に取り組むとともに、セクハラ防止規程をパワハラ等に対応出来るよう、規程を改正した。
- 倫理委員会に外部委員を1名増員し、公正を期した。
- 患者からの医療相談や職員の対応等への苦情など1500件余に対し、医事相談員、医療福祉相談員等で連携して対応した。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（五十音順、敬称略）

氏 名	役 職 等
茨 常 則	日本医療文化研究会 主宰
佐 藤 エキ子	聖路加国際病院 副院長・看護部長
島 岡 ま な	大阪大学大学院高等司法研究科 教授
◎ 月 山 和 男	月山病院 院長
橋 本 佳 明	上尾中央総合病院 生活習慣病センター長
林 宏	元紀陽銀行 専務取締役

(注) ◎印は委員長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・ 第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成22年 7月 6日開催
- ・ 第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成22年 8月 3日開催
- ・ 第3回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成22年 8月17日開催

○大学収容定員等（平成21年4月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	420	421
保健看護学部	332	333
医学研究科	196	145
修士課程	28	30
博士課程	168	115
保健看護学研究科	24	31
助産学専攻科	10	10

○教職員数（平成21年6月1日現在）

総 数（人）	1,387
教員	347
事務職員	93
技術職員	6
現業職員	26
医療技術部門職員	167
看護部門職員	737
研究補助職員	11

(出典) 平成21年度和歌山県立医科大学概要